

第3学年

1 単元名 かけ算の筆算を考えよう

2 単元の目標

関心・意欲・態度 ・2～3位数×2位数の筆算の仕方について、2～3位数×1位数の計算を基にできることよき気づき、学習に生かそうとする。

数学的な考え方 ・2～3位数×2位数の筆算について、数の構成や既習の乗法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。

技能 ・2～3位数×2位数の乗法の筆算の手順を基にして、計算が確実にできる。
・簡単な2位数と1位数の乗法を暗算で計算することができる。

知識・理解 ・2～3位数×2位数の乗法の筆算の仕方について理解する。

3 基盤

○教材観

本単元のねらいは、2位数や3位数に2位数をかける乗法について理解しその計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばすことである。

本単元で扱うかけ算の筆算は、新学習指導要領には以下のように位置付けられている。

A数と計算

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、筆算の仕方について理解すること。

(イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

(ウ) 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

乗法の筆算形式は、第9単元「かけ算の筆算(1)」で、2位数や3位数に1位数をかける場合を学習している。本単元では、乗数が2位数の場合の筆算へと発展させ、2位数と1位数の乗法が暗算でもできるように学習を進めていく。

2位数をかける計算の前段階として、何十をかける計算を取り上げることは、乗数の十の位の数と被乗数との部分積を考えたり、答えの大きさの見積りをしたりするうえでも必要となるところで

ある。ここでは、交換法則を用いて、乗数と被乗数を交換しても答えが同じで、桁数の少ない方を乗数にすると計算が簡単になることを理解する。乗数が何十の場合（2位数×何十）であっても、2位数×1位数の答えに0を加えれば答えが求まり、暗算での計算範囲を広げることができる。

そして、本時となる「倍の問題」は、5年生「割合」指導の前に、「倍」の指導をする題材でもある。基準量の任意性から、1あたりを基準量としなくても全体を求められる場合があることを理解できるようにする。また、基準量を求めるには、□を用いた乗法の式に表すと考えやすいこと、除法を用いて□を求めればよいことを理解させる。

単元全体を通して、類推的に計算の仕方を考えることで、乗法の筆算は桁数が増えても計算の基本は変わらないということに気づく単元でもある。

○児童観

個人情報保護のため省略

○指導観

本単元では、筆算の仕方を機械的に覚えるのではなく、分配法則を基にして、既習の2位数×1位数と導入で学習した乗数が何十の計算を合わせたものが筆算となっているという意味の理解を大切に進めていく。そして、2位数×2位数（乗数の末尾に0がある）の簡単な計算の仕方と1位数×2位数の計算は乗法の交換法則を利用して乗数を1位数にするよさを理解して活用できるようにしていく。2位数をかける計算では、筆算形式の書き方が重要となり、マス目を利用して、位取りを丁寧に確認していくことを大切にして指導していく。また、発展した3位数×2位数の計算では、基本的な考え方は2位数×2位数と同じであることを理解して取り組ませる。

本時は、3・4年生の学習の内容から、3年生の直接指導の時間を長めに設定している。

ここでは、2つの数の倍関係を用いると1あたりを基準量としなくても全体量を求められる場合があることを学習する。学習課題では、「ドーナツ1個分の値段を考えて求める方法」と、「何袋買えばよいかを考えて求める方法」を見つけさせる。本時の学習となる「まとめ」が一つ分という点に着目できるよう、課題提示の際には、「1ふくろ」という言葉を隠して提示する。そして、実生活を振り返り、買い物をする場面と重ね合わせて課題に取り組ませ、課題が児童にとって身近な問題であることに気づかせる。「わかっていること」と「聞かれていること」にラインをひくことや絵を描くことで、課題を把握させる。そうすることで、学習活動の「くらべる」際には、必要な情報を用いているかを確認する手立てとする。立式の前に、2人の児童が学習課題に合わせた絵を協力して描くことで、学習課題の理解を深めるだけでなく、「1ふくろ」が「いくつ分」と既習の乗法と同じであることに気づかせる。話し合いの中で2つの考え方が出なければ、児童の絵や図を用いて、教師が考え方を伝えながら立式につなげていく。

また、児童の考えを引き出してめあてを決めてミニホワイトボードに書き、自分たちで作っためあてで学習意欲を高め、めあてを意識して学習に取り組ませていく。本時のまとめもミニホワイトボードに書き、次時にも振り返ることができるようにし、学習を積み重ねていく。

本時の支援の一つとして、半具体物を準備する。個人思考が進まない児童に考える手立てとして操作活動に使ったり、話し合いがスムーズに進むように使ったりして児童の理解を助ける役割にする。また、課題把握、聞きあう・くらべる活動、まとめる活動では、介入して児童の理解を確認したり、話し合いが続くように言葉をつなげたり、児童の伝えたいことを助けられるようにし、本時の目標の達成を目指す。

本時の学習課題で、2つの方法を考えて取り組ませながら、理解できているのかを見取っていく。そして、最終的には、練習問題を通して自分に適した方法を見つけさせていく。

学習を通して、実生活に活かされるように学習と児童の生活を近づけ、自分に合った求め方で解けるようにし、算数科のよさを実感できるように取り組んでいく。

4 指導・評価計画（全13時間 本時9/13時）

次	時間	目標	評価規準【観点】（評価方法）
一 （2時間）	1	・1位数×何十の計算の仕方について理解し、その計算ができる。	・1位数×何十の計算について、乗法の結合法則を用いて考えようとしている。 【関心・意欲・態度】（発言・ノート） ・1位数×何十の計算の仕方を理解している。 【知識・理解】（ノート）
	1	・2位数×何十の計算の仕方を理解し、その計算ができる。	・2位数×何十の計算の仕方を、2位数×1位数の計算を基にして式や図を用いて考え、説明している。 【考え方】（ノート） ・2位数×何十の計算の仕方を理解している。 【知識・理解】（ノート）
二 （6時間）	2	・2位数×2位数（部分積がみな2桁で繰り上がりなし、繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・既習の計算を基に、2位数×2位数の計算の仕方を式や図を用いて考え、説明している。 【考え方】（ノート） ・2位数×2位数（部分積がみな2桁で繰り上がりなし、繰り上がりあり）の筆算ができる。 【技能】（ノート・ふり返しカード）
	1	・2位数×2位数（部分積がみな2桁で繰り上がりなし、繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・2位数×2位数（部分積が2、3桁で繰り上がりなし、あり）の筆算ができる。 【技能】（ノート）
	1	・2位数×2位数（乗数の末尾に0がある）の簡便な計算の仕方や、1位数×2位数の計算は乗法の交換法則を用いても計算できることを理解する。	・位の数字や桁数に着目して、計算のきまりを用いて簡単に計算する方法を考え、工夫している。 【考え方】（ノート） ・1位数×2位数の計算を工夫して、2位数×1位数で計算できることを理解している。 【知識・理解】（ミニホワイトボード・ノート）

	2	<ul style="list-style-type: none"> 3 位数×2 位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3 位数×2 位数の筆算の仕方を、2 位数×2 位数や 3 位数×1 位数などの筆算の仕方を基に類推して考え、説明している。 【考え方】(ノート) 3 位数×2 位数の筆算ができる。 【技能】(ノート・振り返りカード)
三 (2時間)	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 1 あたりの数量や 2 つの数の倍関係に着目して全体量を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 あたりの数量や 2 数の倍関係に着目して全体の代金の求め方を考え、説明している。 【考え方】(ノート)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 基準量を求める場合には、□を用いて乗法の式に表し、除法を用いて□を求めればよいことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を数直線を基にとらえ、□を用いた式に表すことを考え、説明している。 【考え方】(ノート) 未知数を□として乗法の式に表し、□の値を求めることができる。 【技能】(振り返りカード・ノート)
四 (1時間)	1	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な場合の 2 位数×1 位数の暗算の仕方を理解し、その暗算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な場合の 2 位数×1 位数の暗算の仕方を理解している。 【考え方】(ノート)
五 (2時間)	1	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。 【技能】(発言・ノート・振り返りカード)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習内容を身につけている。 【知識・理解】(発言・ノート・振り返りカード)

第4学年

1 単元名 小数のかけ算とわり算を考えよう

2 単元の目標

- 関心・意欲・態度 ・小数×整数、小数÷整数の計算の意味や計算の仕方を、既習の整数の乗法や除法の計算と関連づけてとらえようとする。
- 数学的な考え方 ・小数×整数、小数÷整数の計算について、既習の整数の乗法や除法の計算を基に考え、具体物や図、式を用いて答えを求めたり、計算の仕方をまとめたることができる。
- 技能 ・小数×整数、小数÷整数、整数÷整数で商が小数になる場合の計算をすることができる。
- 知識・理解 ・小数×整数、小数÷整数、整数÷整数で商が小数になる場合の計算の意味や計算の仕方を理解する。

3 基盤

○教材観

本単元では小数×整数、小数÷整数の乗除計算と、整数÷整数（商が小数）の場合を取り上げ、小数の数としての理解と計算の仕方をより深めることをねらいとしている。

本単元で扱う小数のかけ算とわり算は、新学習指導要領には以下のように位置付けられている。

A数と計算

(4) 小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次に事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。

(エ) 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えるとともに、それを日常生活にいかすこと。

小数については、第3学年第11単元「小数」で $\frac{1}{10}$ の位の範囲で、第4学年第10単元「小数のしくみ」で $\frac{1}{1000}$ の位までの範囲で、小数の仕組みや加減計算について学習してきた。

小数×整数の乗法では、基本的に小数を整数化して、整数の乗法として考えて計算し、それを小数の単位で換算しなおす方法で計算をする。

小数÷整数の除法の場合も、被除数の小数を整数化して考え、整数の除法で商を求めている。つまり、小数×整数、小数÷整数の乗除法では、1つは、被乗数、被除数の小数を単位換算して整数化すること、もう1つは被乗数、被除数の小数を整数化することの2つの考え方を扱って筆算形式を理解させていく。

そして、整数÷整数では、割合の見方を取り上げ小数倍の概念の意味を明確にしていく。これらは、第5学年「小数のかけ算」「小数のわり算」の学習で活用される考え方であり、これは分数においても活用できることから、第5・6学年「分数のかけ算とわり算」において計算方法を導き出す際

に活用される。

本単元は、ただ単に計算手順を覚えるだけではなく、ここで学習する小数の基本的な考え方はこれから小数を扱う学習の土台なる単元である。

○児童観

個人情報保護のため省略

○指導観

本単元では、まず小数×整数、小数÷整数の計算の意味を理解して筆算の仕方について考えていく。計算の意味を理解するために「単位を換算することで整数化する考え」と「小数の下位単位を1とした見方で整数化する考え」の2つを用いて考えさせていく。計算の仕方については、既習事項である整数の筆算の仕方に結び付け、小数点の位置に気をつけながら取り組ませる。機械的に処理するのではなく、図や絵、半具体物を用いて予想を立てながら、理解を図っていく。また、整数÷整数（商が小数）では、もともになるものを1とみる割合の見方を取り上げ、数直線を利用して小数倍の意味について考えさせていく。また、教室にはペットボトルや紙パックを置いておき、単元を通して生活に近づけて指導していく。

本時の学習にあたっては、3・4年生の学習の内容から、4年生の内容は乗法での学習の進め方と同じようにすることで、ガイド役を中心に児童だけで学ばせる。そのため、4年生の直接指導の時間を短めに設定しており、教師はめあてとまとめの確認を中心に児童の前に立つ。

本時の「小数のわり算」は、小数÷整数の計算の仕方が2通りあることを理解しながら、計算方法を導き出したい。そこでは、学習課題である $3.6 \div 3$ において「3.6L を 3L と 6dL に分けた考え方」と、「0.1 を基にした考え方」を見つけさせる。その手立てとして、「わかっていること」と「聞かれていること」に線を引くことや絵を描くことで、課題を把握させたい。考える活動の前に、ペットボトルを見せて、1L よりは多くなるという見通しをもって解くようにさせる。式のみで考えるのではなく、黒板に絵を描き絵や図（数直線）で考えるヒントとさせて計算方法を考える見通しを持たせる。

取り組む活動では、板書をヒントにして問題を解き、その中で、自分に合った解き方を見つけるように導く。

また、児童の考えを引き出してめあてを決める。自分たちで作っためあてであることから学習意欲を高めるだけでなく、めあてを意識して学習に取り組ませる。また、本時のまとめにおいても、ミニホワイトボードを活用して、次時にもふり返ることができるようにし、学習を積み重ねていく。

4 指導・評価計画（全 15 時間 本時 6/15）

次	時間	目標	評価規準【観点】（評価方法）
一 （5時間）	1	・ 小数×整数の計算の意味を理解し、その計算ができる。	・ 小数×整数の計算の意味や計算の仕方を、既習の整数の乗法計算と関連づけて考えようとしている。 【関心・意欲・態度】（発言・ノート） ・ 小数×整数の意味を理解している。 【知識・理解】（発言・振り返りカード）

	1	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数に1位数をかける筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数に1位数をかける筆算の仕方を、既習の整数の乗法の筆算を基に図や式を用いて考え、説明している。【考え方】(発言・ノート) 1/10の位までの小数に1位数をかける筆算ができる。【技能】(発言・ノート・振り返りカード)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数に1位数や2位数をかける筆算(被乗数が純小数の場合や、積の末位が0になる場合を含む)の仕方を理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数に1位数や2位数をかける筆算(被乗数が純小数の場合や、積の末位が0になる場合を含む)ができる。四捨五入して概数にすることができる。【技能】(ノート) 1/10の位までの小数に1位数や2位数をかける筆算(被乗数が純小数の場合や、積の末位が0になる場合を含む)の仕方を理解している。【知識・理解】(ノート・振り返りカード)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 1/100の位の小数に1位数をかける筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 発展問題に取り組み、本数が2倍、3倍、…になると、全部のジュースの量も2倍、3倍、…になることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1/100の位の小数に1位数をかける筆算の仕方を、既習の乗法の筆算を基に乗法の性質を用いて考え、説明している。【考え方】(ノート) 1/100の位の小数に1位数をかける筆算ができる。【技能】(ノート・振り返りカード)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。【技能】(ノート) 「以上」「未満」「以下」の意味を理解している。【知識・理解】(ノート・振り返りカード)
二(7時間)	1(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 小数÷整数の計算の意味と計算の仕方を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数÷整数の計算の意味や計算の仕方を、既習の整数の除法計算と関連づけて考え、答えを求めることができる。【考え方】(発言・ノート)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数を1位数でわる筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数を1位数でわる筆算の仕方を、既習の整数の除法の筆算を基に図や式を用いて考え、説明している。【考え方】(発言・ノート) 1/10の位までの小数を1位数でわる筆算ができる。【技能】(ノート・振り返りカード)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数を1位数や2位数でわる筆算(商が純小数になる場合を含む)の仕方を理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1/10の位までの小数を1位数や2位数でわる筆算(商が純小数になる場合を含む)ができる。【技能】(発言・ノート) 1/10の位までの小数を1位数や2位数でわる筆算(商が純小数になる場合を含む)の仕方を理解している。【知識・理解】(ノート・振り返りカード)

	1	<ul style="list-style-type: none"> 1/100の位の小数を1位数や2位数でわる筆算(商が純小数になる場合や、被除数が純小数の場合を含む)の仕方を理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1/100の位の小数を1位数や2位数でわる筆算の仕方を、既習の除法の筆算を基に除法の性質を用いて考え、説明している。【考え方】(発言・ノート) 1/100の位の小数を1位数や2位数でわる筆算(商が純小数になる場合や、被除数が純小数の場合を含む)ができる。【技能】(ノート)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 小数÷整数で余りを求める計算で、余りの大きさについて理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 余りを、単位とする小数の何こ分として考え、説明している。【考え方】(発言・ノート) 小数÷整数で余りがでる計算ができる。【技能】(ノート・振り返りカード)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 整数÷整数でわり進みをするときの筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数点以下に0を補うことで、整数の場合と同じように計算が続けられることを考えている。【考え方】(発言・ノート) 整数÷整数の筆算で、わり切れるまで計算ができる。【技能】(ノート・振り返りカード)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 小数÷整数でわり進みをするときの筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 商を概数で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 商を四捨五入して概数で求めることができる。【技能】(発言・ノート)
三 (1時間)	1	<ul style="list-style-type: none"> 小数倍の意味について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数倍の意味について、図などを用いて考え、説明している。【考え方】(発表・ノート) 小数倍の意味を理解している。【知識・理解】(発言・ノート・振り返りカード)
四 (2時間)	1	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。【技能】(発言・ノート)
	1	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習内容を身につけている。【知識・理解】(ノート・振り返りカード)

5 本時の学習

(1) 目標

1 あたりの数量や2つの数の倍関係に着目して全体量を考えることができる。

(2) 展開

5 本時の学習

(1) 目標

小数÷整数の計算の意味と計算の仕方を考えることができる。

(2) 展開

第3学年		第4学年		
教師の支援(○)と評価(☆)	学習活動と予想される児童の反応	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援(○)と評価(☆)	
<p>○本時の見通しを持つために、本時の流れを知らせる。</p> <p>○課題の「1ふくろに」という言葉を隠して提示し、児童に何が入るかを考えさせることで、1袋に入っていることを意識させる。また、実生活と関連付けて、課題を児童に身近なものと感じさせる。</p> <p>○課題を理解するために、分かっていることと聞かれていることを直線と波線で課題に書きこませる。</p> <p>○課題を理解するために、絵を描かせるが、値段が書きこまれていなければ、確認して書き込ませる。ここでの絵は、「分かっていること」が表されていればよいこととする。</p> <p>○児童がめあてを考えることで、主体的に課題に向かう意欲を高める。</p> <p>○より明確なめあてにするために、どのようにして考えるかを聞くことで、「絵や図を使って」という文章を補う。</p> <p>○困っている児童には、半具体物を与え、何袋になるかを考えるように助言する。</p>	<p>1. 学習の流れと本時の課題を理解する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日のメニューを紹介する。 ○課題を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ドーナツが 1ふくろに 4こ入って、36円で売っています。 このドーナツ 12こ分の代金はいくらですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○分かっていることに直線、聞かれていることに波線を引く。 ○協力して課題をミニホワイトボードに絵で表す。 <p>2. めあてを考える。(5分)</p> <p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(絵や図を使って、)代金の求め方を考えよう! ・(")代金の考え方をを見つけよう! <p>3. 考える (5分)</p> <p>①絵から、12個は3袋分。 $36 \times 3 = 108$ $36 + 36 + 36 = 108$</p> <p>②絵から、ドーナツ1個分の値段を考える。 $36 \div 4 = 9$ $9 \times 12 = 108$</p> <ul style="list-style-type: none"> ・36円が4個だから。 $36 \times 4 = 144$ ・36円が12個だから。 $36 \times 12 = 432$ ・1袋に4個で36円だから。 $36 \div 4 = 9$ 	直 接 接 触 指 導	<p>1. 学習の流れと本時の課題を理解する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日のメニューを紹介する。 ○課題を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>水が3.6Lあります。 この水を3人で等分すると、1人分は何Lになりますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○分かっていることに直線、聞かれていることに波線をひく。 ○協力して課題を黒板に絵で表す。 ○立式する。 <p>2. めあてを考える(5分)</p> <p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(絵や図を使って) 計算の仕方を考えよう! ・答えのもとめ方を考えよう! <p>3. 考える (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.6を3と0.6に分ける。 $3 \div 3 = 1$ $0.6 \div 3 = 0.2$ 1と0.2を合わせて1.2 ・3.6は0.1の36個分だから $36 \div 3 = 12$ 0.1の12個分は、1.2 ・3.6Lは、36dLだから $36 \div 3 = 12$ 12dLは、1.2L ・3.6Lは、3Lと6dLだから $3 \div 3 = 1$ $6 \div 3 = 2$ 1L2dL=1.2L ・絵を見て、3Lを3人で分けると1人1本になり、残りの0.6Lは6めもりを3人で分けるので1人0.2Lになる。合わせて1.2L ・$3.6 \div 3 = 1.2$ 	<p>○本時の見通しを持つために、本時の流れを知らせる。</p> <p>○課題を理解するために、分かっていることと聞かれていることを直線と波線で課題に書きこませる。</p> <p>○課題を理解するために、絵を描かせるが、ここでの絵は、1Lが4本か1Lが3本と0.6Lが1本の絵が表せていればよいこととする。</p> <p>○児童がめあてを考えることで、主体的に課題に向かう意欲を高める。</p> <p>○より明確なめあてにするために、どのようにして考えるかを聞くことで、「絵や図を使って」という文章を補う。</p> <p>○実際にペットボトルを見せて考えさせ、1人分は1Lより多くなるという見通しを持たせる。</p> <p>○困っている児童には、絵にめもりを入れるように助言する。</p>

<p>○聞きたいことはないかを問うことで、友だちの説明が分からないまま進まないようにする。</p> <p>○説明が十分でない場合があったら、教師からも質問をする。</p> <p>○聞き合ったところで間違いに気づかない場合は、絵と対応させながら立式が何を表しているかを考えさせて気づかせる。</p> <p>○教師がそれぞれの考えを短い言葉でホワイトボードに書き、くらべる活動のための手立てとする。</p> <p>○一方の考え方しか出なかった場合は、絵カードを見せたり、式を提示したりして考えさせる。</p> <p>☆1あたりの数量や2数の倍関係に着目して全体の代金の求め方を考え、説明している。</p> <p>○絵で表したことと式で表したことが同じであることを確認する。</p> <p>○各自で絵をノートに描かせ、見せ合うことでスタートラインを揃える。</p>	<p>4. 聞き合う・くらべる (10分)</p> <p>○聞き合う</p> <p>①12個は3袋になるから、 $36 \times 3 = 108$ (絵・式で3袋を説明)</p> <p>②1袋に4個入って36円だから、$36 \div 4 = 9$ 1個9円だから、 $9 \times 12 = 108$</p> <p>○くらべる 同じところと違うところをまとめる。</p> <p>○もう一度考える</p> <p>5. まとめる (5分)</p> <p>●代金を求めるときは、「1個分の値段」や「何袋あるか」を考えれば、求めることができる。 ・絵を描けば、分かりやすい。</p> <p>6. 取り組む (5分)</p> <p>練習問題に取り組む。</p> <p>・①「何袋になるか」を求める方法で考える。 ・次時に、②1本の値段をもとめる方法で考えることを告げる。</p> <p>7. ふり返る (5分)</p>	<p>直 接 指 導 型 同 時 間 接 指 導 (見 守 り 型)</p>	<p>4. 聞き合う・くらべる (10分)</p> <p>○聞き合う</p> <p>・3と0.6に分けて、それぞれ3でわって、それぞれの答えを合わせる。</p> <p>・0.1が何個分かを考えて、その数を3人で分けると、0.1が1人分は12になるので、0.1が12こで1.2</p> <p>○くらべる 同じところと違うところをまとめる。</p> <p>・式で考える ・位を分けて考える。 ・絵や図で考える。</p> <p>5. まとめる (5分)</p> <p>●$3.6 \div 3$は、3.6を0.1がいくつ分かで計算する。 ●単位で分けてわり算する。 ・絵を描けば分かりやすい。 ・小数を整数にして考えて計算する。</p> <p>6. 取り組む (5分)</p> <p>練習問題に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>水が4.8Lあります。 この水を4人で等分すると、1人分は何Lになりますか。</p> </div> <p>・単位で分けて計算する。 ・0.1が何個分を考えて求める。</p> <p>7. ふり返る (5分)</p>	<p>○友だちの考えを聞いた後、ポイントとなる部分を発表者以外で考え、黒板に書き、くらべる活動のための手だてとする。</p> <p>○聞きたいことはないかを問うことで、友だちの説明が分からないまま進まないようにする。</p> <p>○一つの考え方しか出なかった場合は、「絵を3等分してみよう？」「絵にめもりを書き加えてみよう？」と問うことで他の考え方についても考えさせる。</p> <p>○聞き合ったところで間違いに気づかない場合は、絵と対応させながら立式が何を表しているかを考えさせて気づかせる。</p> <p>☆小数÷整数の計算の仕方を既習の整数の除法計算と関連付けて考え、答えを求めることができる。</p> <p>○絵で表したことと式で表したことが同じであることを確認する。</p> <p>○各自で絵をノートに描かせ、自分の計算の仕方を絵でも説明できるようにさせる。</p>
---	--	---	---	--

(3) 本時の評価基準

評価の観点	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足と評価される児童の具体例	支援を必要とする児童への手立て
数学的な考え方	1あたりの基準量と2数の倍関係に着目して全体量を考え、立式でき、説明できる。	1あたりの基準量や2数の倍関係に着目して全体量を考え、説明できる。	絵カードを見せたり、式を提示したりして、もう一つの考え方に気づけるようにする。

(3) 本時の評価基準

評価の観点	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足と評価される児童の具体例	支援を必要とする児童への手立て
数学的な考え方	小数÷整数の計算の仕方を既習の整数の除法計算と関連付けて考え、説明できる。	小数÷整数の計算の仕方を既習の整数の除法計算と関連付けて考え、答えを求めることができる。	絵にめもりを入れるように助言する。

6 研究の視点

互いに関わり合う場面での授業者の支援は、児童同士で協働しながら課題解決していくための手立てとして有効であったか。

6 研究の視点

互いに関わり合う場面での授業者の支援は、児童同士で協働しながら課題解決していくための手立てとして有効であったか。